

エイズ対策のキーパーソンたち

「思いついたアイデアを すぐカタチに」で10年続けた 西日本最大級ゲイナイト！



DELUXE ZUMANITY主催
KOBAさん

西日本最大級の集客を誇るゲイナイト(ZUMANITY)。2007年、キタで産声をあげたこのイベントは、その後(DELUXE ZUMANITY)と名前を変え、南港から難波へと処も変えながら、ずっと大阪最大のライブハウスで開催されて今年でなんと十周年！今回はこのビッグイベントを主催してこられたKOBAさんにお話を伺いました。

「**g**」っていうクラブイベントでデビューしたんです。
M…覚えてますと。ド派手で趣向が凝らしてあって、オカマらしさ満載で、それでもって二人ともガタイがよくって、毎回ヨダレ垂らしながら見てました！
KOBA…思いついたアイデアをすぐカタチにできるのが快感でしたね。そうやってユニットが成功

すると、人が集まること自体を企画したい気持ちが強くなって…
M…いきなり大バコで始めたんですね？
KOBA…ユニットでやってた時はノンケさんのクラブでもレギュラーでショウをやってた。そうするとクラブ業界の人たちとも繋がりが出来て、それでメジャーなハコでやることになった。でも南港でやったときは大変でした。お客さんが1500から2000人くらいになると、スタッフも100人くらいになると、街中から遠かったので堂山から送迎バスを出したり、芸能人を呼んだりもしてメチャクチャしんどかった。それに南港で会場だったライブハウス(Zeppe)が難波に移転したところ、**丁度風営法がらみでクラブ営業の締め付けが厳しくなったから、本気で撤退を考えたこともありましたが、それでも続けてこられたのはなぜ？**
KOBA…やっぱりお客さんかな。大きなイベントだし、芸能人が出演したりもするから、クラブ好きの若者だけでなくいろんな年齢層のゲイの人たちが集まってくる。そんな人たちが目いっぱい楽しんでるのを見ると、「これは自分たちにしかならないことなんだから、やり続けなきゃ！」って。もちろん支えてくれる人たちもいっぱいいた。MASH大阪もそうだし、ゲイのネットワーク、クラブビジネスの関係者も応援してくれた。M…でもKOBAさんは仕事でやっているわけじゃないんですね？

「**KOBA…ええ、昼間はフツーに仕事してます。根っからのパリピパーティビープル**」なのかな。(ZUMANITY)では裏方に徹してるけど、今でもノンケさんのクラブイベントにはパフォーマーで出てるし…。
M…(ZUMANITY)は最初からエイズ予防啓発に熱心に取り組んできた印象がありますが…。
KOBA…エイズのことでは友達から相談されたとき、自分にはできることは何だろうと考えて、それはやっぱりイベントにやってくる人たちにメッセージを発信すること

なのかなと。デビューしたのがMASH大阪主催のパーティだったってことも大きいかな。でも今の時代、エイズ予防のメッセージを発信するのはアタリマエのことだって思う。
M…今後の(ZUMANITY)についてひと言お願いします。
KOBA…そうですね、自分はずっとパリピでいたいけど、イベントは次の世代に引き継ぎたい。風営法が変わって、時代の転換期かな、とも思うし。
M…どうもありがとうございます。



発行：MASH大阪
〒530-0027 大阪市北区堂山町17-5 翼ビル4F
☎& 06-6361-9300
http://www.mash-osaka.com/

この資料は平成28年度厚生労働省委託事業「同性愛者等のHIVに関する相談・支援事業」に基づき作成されています。

夏号の紙面 VIEW

- 2面 時事ネタ WATCH
- 4面 知られざる偉人伝
- 5面 男朋友
- 7面 海外男街通信「USA」

こちらのHIV検査場はすべて無料・匿名です

大阪府版(2016年9月2日現在)

エイズの知識を深め、HIV検査に行ってみませんか？

以下の検査施設では、無料・匿名でHIV検査を受ける事ができます。

検査日時については各保健所等へ直接ご確認ください。

※道順等の詳細についても、各保健所等へ直接お問い合わせください。

マークの説明

- HIV検査と同時にクラミジア及び梅毒の検査も無料で出来る施設です。
- ★ 即日検査できる施設です。 ※ 通常の検査では一週間、即日検査はその日のうちに結果がわかります。

[大阪市]

北区保健福祉センター ● 大阪市北区扇町2-1-27 ☎06-6313-9882	月・火・木・金曜日 / 9時30分～11時 水曜日 / 14時～15時30分
中央区保健福祉センター ● 大阪市中央区久太郎町1-2-27 ☎06-6267-9882	火・水・木 ● / 9時30分～11時 第1金曜日★(HIVのみ) / 14時～15時
淀川区保健福祉センター ● 大阪市淀川区十三東2-3-3 ☎06-6308-9882	月曜日 / 14時～15時30分 火曜日 / 9時30分～11時
chotCASTなんば (大阪検査相談・啓発・支援センター) ● 大阪市浪速区難波中1-6-8 イチエイ総合ビル3F 火・木・土曜日 / ☎06-6632-0632 日曜日 / ☎06-4256-8681 ※いずれも検査実施時間帯のみ。	火・木曜日 / 18時～20時(先着50名) HIV・梅毒・B型肝炎 土・日曜日★ / 14時～15時30分(先着50名) HIV・B型肝炎 ※土曜日は13時30分に整理券を配布。 日曜日のみ事前予約制→ (スマホ)http://www.npo-jhc.com/namba-kensa/ (フューチャーホン) http://www.npo-jhc.com/namba-kensa/m

[堺市]

堺保健センター ● 堺市堺区甲斐町東3-2-6(保健センター内) ☎072-238-0123	第2木曜日 / 9時～11時
中保健センター ● 堺市中区深井沢町2470-7(中区役所内) ☎072-270-8100	第3月曜日 / 9時～11時
東保健センター ● 堺市東区日置荘南寺町195-1(東区役所内) ☎072-287-8120	第4火曜日 / 9時～11時
西保健センター ● 堺市西区鳳南町4-444-1(鳳保健文化センター内) ☎072-271-2012	第1金曜日 / 9時～11時
南保健センター ● 堺市南区桃山台1-1-1(南区役所内) ☎072-293-1222	第3水曜日 / 9時～11時
北保健センター ● 堺市北区新金岡町5-1-4(北区役所内) ☎072-258-6600	第2火曜日 / 9時～11時
ちぬが丘保健センター ● 堺市堺区協和町3-128-4 ☎072-241-6484	第1水曜日 / 13時30分～15時30分
美原保健センター ● 堺市美原区黒山782-11 ☎072-362-8681	第4木曜日 / 13時30分～15時30分
堺市保健所(夜間検査) ● 堺市堺区北花田口町3-1-15 東洋ビル4F ☎072-222-9933	奇数月・第3水曜日 / 18時30分～20時
堺市保健所(平日即日検査) ★ 堺市堺区甲斐町東3-2-6(保健センター内) ☎072-222-9933	偶数月・第4木曜日 / 10時～11時
さかいサンサンサイト ★ 堺市堺区北花田口町3-1-15 東洋ビル4F ☎072-222-9933	第1土曜日 / 10時30分～12時(先着20名)

エイズ、性感染症について、気軽にご相談ください！

HIV陽性とわかった時、またエイズや性感染症について相談したり、情報が欲しい時、大阪には相談できるサービスや支援があります。気軽にお問い合わせください。

HIV検査や性感染症などに不安がある方

コミュニティ センター ディスタ
community center dista

性感染症について知りたい、相談や心配事がある、そんな方はご相談ください。お話を伺いき、一緒に考えるお手伝いをします。電話相談と対面相談を行っています。相談員にはゲイの人にもいて安心です。

☎06-6361-9300

月曜・水曜～日曜 / 17:00～22:30
火曜休

http://www.dista.be/
大阪市北区堂山町17-5 翼ビル4階

HIV陽性とわかって間もない方

ひよっこクラブ

HIV陽性とわかって間もない人のためのグループミーティング

HIV陽性とわかって間もない人同士が集い、安心できる場所で情報や体験を話したり聞いたりする事で、これからの生活より良いスタートにつなげていくプログラムです。

http://www.hiyokkoclub.com/

HIV陽性のゲイ・バイセクシャル男性

Cafe・Bar an opportunity
～ただのきっかけ～

HIV陽性のゲイ・バイセクシャル男性がふらっと立ち寄れる場所。谷町6丁目駅から徒歩3分のところにあるお店で、毎月第二日曜日14時～18時に開催しています。
注：月曜日が祝日の場合は第三日曜日

詳細はこちら
http://www.60.atwiki.jp/anopportunity/

エイズに関する様々な相談をしたい方

エイズ予防財団

エイズに関するご相談を電話で受け付けています。お気軽にご連絡ください。

☎0120-177-812 (無料)

※携帯電話からは、03-5259-1815まで(有料)
月曜～金曜 / 10:00～13:00、14:00～17:00(祝日は除く)

[南界堂通信 第16号 編集後記]

●distaで開催された保険セミナーに参加した事で、「保険」という分野への突破口が開けたように思います。保険会社を比べたり、あれこれ調べているワタシがいます。保険セミナーは9月、12月にも開催されますので興味のある方は是非! (伴伸)

●最近、夜勤続きで体重が落ちました。太っている方がモテるセオリーの中、非モテ街道奮進中です。みなさまも夏バテにはご注意ください。(田中)

●2面「時事ネタ」の弁護士会企画に僕も関わったのですが、ブームをブームで終わらせずに、フツーのゲイの生活に密着した動きを作っていく必要を感じました。(大畑)

●町内会の青少年担当理事を引き受けました。夏はラジオ体操、地蔵盆のお世話。学区の夏祭りの手伝い。生活に季節感があって楽しいです。(泰平)

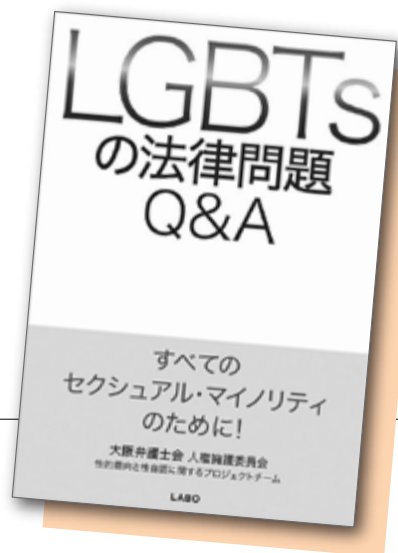
●最近になって季節感のある行事を楽しんでいます。昔はあまり興味なかったのですが、春は花見、夏は浴衣を着て祭りにいったり海に行ったり、旬を体感するのは、やはりいいものですね。秋はスポーツや読書や食欲いろいろあって今からワクワクしてます! (とし)

●最近になって季節感のある行事を楽しんでいます。昔あこちのクラブで遊んだころのことが懐かし思い出されたことでした。堂山のピエロ、土佐堀のパラノイア、ミナミのMOMA、京都のメトロ……お酒とダンスでヘロヘロになって朝方帰宅してシャワー浴びてボタンキュー……嗚呼、我が青春(?)の日々(哲)

時事ネタ
WATCH
中高年MSMと暮らし

法律の本 が続々と出版！

大阪弁護士会が
LGBTの本を



題Q&A」が、この度出版されました。

「LGBTの……」と銘打った本は、前述のとおり多く、本屋でも多く見かけるようになりましたが、この本は、特に「法律問題」と唱って、法律家(弁護士)が作ったという点で、日本では初めての本になります。

章立ては「総論、カップル、子ども・家族、医療・健康、労働・社会保障、社会」の6章から成り、45のQ&Aが並んでいます。カップルはともかく、「子供」はゲイには関係ないよという声は多いかも知れませんが(汗)(でも、既婚ゲイの方もいますね)、お金とセックスはゲイには切実かも。

例えば、パートナーとの関係では、「死後、同性パートナーに財産を譲りたい」(Q7)、「老後の財産管理を同性パートナーに依頼したい」(Q8)、「同性パートナーからDVを受けている」(Q11)といったQが続きます。出会いの関係では、「出会い系

アプリで、性的関係を持つことを目的に知り合った相手に言われるまま自分の本名や仕事を伝えたところ「ゲイだとばらすぞ」「バラされたくなかったらお金を払え」と脅されるようになり、言われるままお金を渡す関係が続いています」(Q41)、「別れた腹いせに、送った裸の写真をインターネットの掲示板にアップしてしまいました(リベンジボ

ル)(Q44)とか、ネット絡みのQもあります。ネットを使った男探してトラブルに遭ったりして「あるある」という方も多いかも。

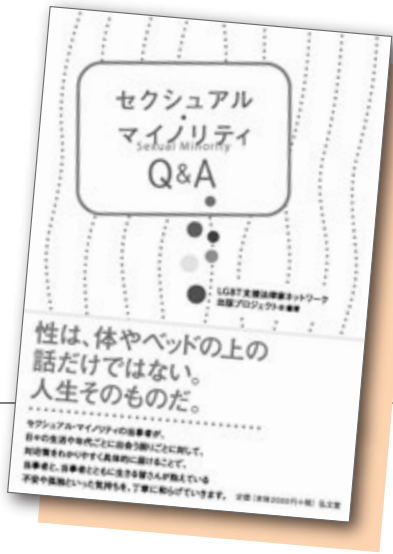
ちなみに、大阪弁護士会館で7月22日、本の出版記念シンポジウムが広がる家族のカタチ」と題して、二宮周平さん(家族法学者)、青山薫さん(社会学者)、尾辻孝子さん(LGBTと家族と友人をつなぐ会「理事長」の3人を迎えて開かれました。

二宮さんは、家族法学者で、男女の事実婚(内縁関係)を研究しており、同性婚についても法改正の可能性について解説されました。青山さんは、女性2人で子育てをしている(英国のパートナー制度に登録)のですが、

同性婚の法律をすぐ作る事よりは、貧困や格差といった問題にも目を向ける重要性を話されました。

法律家だけでなくLGBT当事者も含めた90名近くの参加があり、盛況でした。

「LGBT支援法律家
有志の本も
ネットワーク」



また、7月には、「LGBT支援法律家ネットワーク」の出版プロジェクトが「セクシュアル・マイノリティQ&A」を出版。こちらも同様にセクシュアル・マイノリティの生活と法律をわかりやすく解説したものです。が、こちらの執筆陣は、弁護士だけでなく税理士や会計士もいるため、「法的に結婚できる夫婦

との相続税の違い」「年金などの社会保障制度でパートナーはどう扱われる?」といった税金や年金に関わるQも見られます。

この2冊の本、テーマが重なることから、ほぼ同じQもあったりします。例えば、「HIV感染と損害賠償請求」「性感染症をつつした/うつされた」と刑事罰・損害賠償」で、「私はゲイの男性ですが、先日、性交渉を持った男性が、実はHIVに感染している事がわかりました。彼は、エイズの発症はしていないそうです。私自身がHIVに感染したかどうかは、まだ検査していませんが、相手に対して、損害賠償など請求することは出来るのでしょうか?」といったQです。

それぞれを読むとQ&Aの内容は、ちよつと違っていて、大阪弁護士会の本の方は、陽性者とセックスした相手からの相談事例であるのに対して、「法律家ネットワーク有志」の本では、逆に、陽性者からの相談事例という設定になっています。Aの答え方も微妙に違うかも……両方を読み比べても面白いかもしれません。

大阪弁護士会
「LGBTsのための電話相談」
☎06-6364-6251
日時：毎月第4月曜日(午後4時～6時)
http://soudan.osakaben.or.jp/freetel/#lgbt

法律って、普段フツウに生活している中ではあまり意識しないものですが、何かトラブルに巻き込まれたり、何か大きな出来事に直面した時には法律家のサポートが要る事もあるかもです。特に、ゲイとかLGBTであれば、それを公言できない場合は誰に相談するかで悩んだりする事もあるかもしれません。「法律家ネットワーク有志の本では、末尾に相談機関一覧が掲載されています。また、大阪弁護士会の人権擁護委員会性的指向と性自認に関するプロジェクトチームでは、次のとおり無料電話相談を開設しています。こちらもご参考まで。

10月14日(金)夜@dista「専門家セミナー第1回」開催！
大阪弁護士会の本の執筆チームの三輪弁護士を招いて「LGBTsに関する法律をお話します。詳しくはdistaまで

私たちがとってとても身近な病気でもあるエイズ。感染者の8割がゲイ・バイセクシュアル男性と言われています。今ではHIV検査を受け早めに感染していることがわかれば、エイズに感染していても、その後の選択肢はとても広がるようになりました。HIV検査と言えは保健所の無料匿名検査を思い浮かべる方も多いと思いますし、実際に多くの方に利用されています。また有料になりますが診療所や病院でも利用できます。ただ、いざ検査を受けようと思いついてみると、時間帯が合わない、場所が不便だったり……。HIV検査は基本的に平日の日に開催されているので、お仕事をされている方はなかなか受検しにくいという問題点もあります。

そういった現状の中、「受けやすい検査環境をコミュニティの中に作る事」を目的に、堂山にあるコミュニティセンターdistaが開催しているHIV/梅毒の検査

会、それが「distaでちえっくん」。大阪市内の保健所で実施しているHIV検査のスタイルをそっくりそのままdistaに持つてきて、土日や平日の夜間など受検しやすい時間帯に開催しています。大阪市内保健所とMASH大阪との協働で誕生したこの検査会、今年は大阪市内のすべての保健所とも協働できることになり、ある意味「オール大阪」での検査会を実施します。

この検査会では生体認証(指紋)で登録をお願いしています。WHO(世界保健機構)やCDC(アメリカ疾病予防管理センター)では、HIVに感染していることを早めに知っておくために定期的な受検が推奨されています。過去の検査履歴を指紋ひとつで管理できるこの仕組み、もちろん住所や氏名といった個人情報が必要ありません。指紋の登録自体は任意です。抵抗がある場合には指紋登録はせず検査だけを利用して頂けます。

最近60代、70代でもHIV感染が報告されています。近々のセックスで感染している方もいるそう。いくつになってもセックスは楽しみのひとつ。しかし、セックスすれば性感染症はついてまわるもの。

毎回ご好評を頂いている南界堂茶会。次回は中高年世代のセックスをテーマに開催します。お時間のある方はお気軽にご参加ください。

「隣の芝生は青い」といいますが、意外と利用しやすい施設が身近にあるかもしれません。今回は堺市内の保健センター等でHIV検査を実施している堺市保健所感染症対策課にお邪魔してきました！



堺市保健所感染症対策課

▶ 保健所の連絡先など詳しい情報は [8面] をご覧ください。

堺市、市内には8つの保健センターがあり、曜日と時間帯を少しずつずらして、採血から1週間後に結果をお返すするHIV平日通常検査を実施している。保健センターでの検査は平日の日中ということもあり感染症対策課が打ち出しているのが駅前等での出張検査。

「堺東駅前にあるビルの一室などを堺市が借りし、奇数月の第3水曜日には日中受検できない方をターゲットにした夜間通常検査を、毎月第1土曜日と偶数月の第4木曜日には、即日検査を実施しています」とのこと。

HIV検査に関して前向きな取り組みは頼もしい限り！

その前向きな姿勢は、今回撮影させて頂いた集合写真を見てもお分かりいただけるはず！「お気軽に検査に来てくださいね」というメッセージを表情やアクションで見事に表してくれました。

駅前のアーケードや街中を歩いてみると、和菓子屋さんが多いことに気付く。天下一の茶匠と言われる千利休の出身地という事もあり、地域的にもお茶文化を大切に



しているそう。その説明を受けると和菓子屋さんが多いのも納得。

堺の逸品として和菓子と人気を二分するのが堺刃物。600年以上の伝統を受け継ぎ、職人によって丁寧に作り出される堺刃物は多くの料理人に愛用され、その人気は日本だけでなく世界からも愛される逸品として名声を挙げている。

せっかく検査を受けに行くのであれば、是非ともお茶文化・職人文化にも触れてくださいね。職人が作る伝統品に甘い和菓子……何となく気持ちも安らぐことでしょう……。

distaで安心! HIV検査会

distaでピタッとちえっくん

第1回	(採血) 2016.10/7 (金)	17:30~20:30 場所: dista	(結果通知) 10/14 (金) 17:30~20:30 場所: 堂山周辺
第2回	(採血) 2016.11/6 (日)	13:00~16:00 場所: dista	(結果通知) 11/13 (日) 13:00~16:00 場所: 堂山周辺

第5回「茶会」開催決定！



日時：2016.9/14 (水) 19:30~21:00
場所：コミュニティーセンター dista

最近60代、70代でもHIV感染が報告されています。近々のセックスで感染している方もいるそう。いくつになってもセックスは楽しみのひとつ。しかし、セックスすれば性感染症はついてまわるもの。

『魔の山』における同性愛的なるもの

偉人伝

知られざる



トーマス・マン
(作家 / 1875 - 1955)

前回では、『ヴェニスに死す』発表後、妻・カーチャの結核が判明したところで終わりましたが、今回はそれを契機に生まれたマンの名作『魔の山』と同性愛の問題についてお伝えします。

カーチャはスイスのダヴォスにあるサナトリウムに入院することになりますが、彼女にとっては不幸な病院生活も、創作へのどんな小さなきっかけも見逃さないトーマス・マンにとっては、新たな作品へのインスピレーションとなります。この地に妻を訪問したときの体験が、中期の代表作『魔の山』への構想へとつながっていくのです。岩波文庫で4冊分にもなるこの長編小説は、実際に読まれているかどうかは別として、**マンの作品**

中最も有名なものではないでしょうか。昔ならば『魔の山』を同性愛との関連で論じようものなら、偉い先生から叱責が飛んできたかもしれません。ドイツの(かつての)若手研究者らの勇氣ある活動によって、今日では学会でも堂々と論じることができるようになりました。

『魔の山』は、若き技師ハンス・カストルプが結核療養中の従兄ヨシアヒム・ツィムセンをダヴォスに訪問したさい、自分も軽度の結核にかかっていることが判明し、結局7年もこの療養所、つまり死の支配する『魔の山』に呪縛されるという物語ですが、『ヴェニスに死す』におけるほどあからさまでないにせよ、この小説の中にも複雑として同性愛的要素がしっかりと織り込まれています。ハンスとヨシアヒムのあいだには何か言葉には出せない微妙な空気が介在していますし、自分の政治的イデオロギーに引き入れようとして無垢なハンスの魂を奪い合う革命思想家ナフタと人文主義者ゼッテンフリー二は、競って若者を教育しようとしたギリシアの哲学者たちを彷彿とさせます。しかし、特筆すべきはこの

小説のヒロインとも言うべきクラウディア・ショーシャ夫人との恋愛体験です。なぜ女性との恋愛体験をこの記事に、と疑問を抱かれるかもしれませんが、ハンスが最初はいたく不快感を覚えていたこのロシア人に恋し始めるのは、彼の少年時代の秘めたる同性愛体験と深く関係しているからなのです。彼女から『鉛筆』を借りるという他愛ない夢をきっかけに、ハンスはまだ13歳だった頃、学友のプリビスラウ・ヒッペ少年に密かな恋心を抱いていたことに思い至ります。やがて、二人のスラブ的容貌が酷似していること、いや、彼女がまさにヒッペであるからこそ、ハンスは彼女の虜となります。ハンスが次第にショーシヤとヒッペを重ねて恋に落ちていく経過は、マンらしく綿密な計算のうえに組み立てられており、読んでいると頭がくらくらしそうになります。ヒッペのモデルになったのは、『トニオ・クレイゲル』のハンス・ハンゼンの場合と同じく、少年時代に憧れていたヴィルリ・ティンペでした。

『魔の山』が発表されたのは第一次大戦後、ドイツが急激な変

化を遂げつつあった時代です。1871年に成立したドイツ帝国は敗戦とともにあっけなく崩壊、皇帝ヴィルヘルム二世(彼も同性愛者として有名ですが)は亡命を余儀なくされ、ドイツは帝政から共和制に移行します。巨額の賠償金を背負ったドイツは、やがて最も平和的なワイマール憲法を持つ共和国が産み落としたナチズムに席巻されていくこととなります。『魔の山』は、誰もまだ予期すらしていなかったでしょうが、ドイツが奈落へ向かって突き進む運命をたどり始めた時期に書かれた作品です。ドイツ文化の担い手として保守主義者を自負していたマンも、政治的に大きな変化を迫られ、共和国となったドイツを受け入れざるを得なくなります。

このような時代がもたらす苦悩を背景に生まれた『魔の山』ですが、筆者にとって、この作品の最大の魅力は、そのような社会的問題が死と結合したエロスや潜在的同性愛と複雑に絡み合っているところです。この重層的な作品構造に、作家マンの真骨頂が発揮されているといってしまうでしょう。

文 ● 杉村 涼子

京都産業大学外国語学部教授
専門はドイツ文学。トーマス・マンをはじめとするドイツ文学・文化に関する論文多数。ヨーロッパ全般の文学、芸術、歴史等に深い関心を寄せる。「黙殺され続けてきた同性愛と文学・芸術の関わりを探ることほど知的刺激に満ちたものはない」とも。

男 for you 朋友

風営法改正の陰で ―摘発、勾留から 裁判闘争を経て完全無罪に―

この6月23日に風営法が改正され、客にダンスをさせることが規制の対象から外されることになりました。

じつはそのほんの2週間ほど前、風営法違反に問われた大阪市北区のクラブ「NOON」の元経営者、金光正年さんの無罪が確定したとのニュースが報道されていました。

「NOON」は前身の「CLUB DAWN」時代も含め、定期的にゲイナイトやレズビアンナイトを開催してきた私たちにもなじみ深いクラブですが、その金光さんの裁判闘争と風営法改正のあいだにはどのような関係があったのか、ご本人に突撃インタビューでお尋ねすることにしました――



MASH大阪(以下M)：警察の摘発というのはどのようなようにして起きたのでしょうか？

金光：今から4年前、2012年4月4日午後9時43分に曾根崎署の警察官45名が営業中にいきなり「ダンスさせてたやろ」「女子高生に酒飲ませて踊らせたやろ」という嫌疑で踏み込んで来ました。お客さんは20人くらいいなくて、警察官がお客さんを取り囲んで

事情聴取しました(笑)。私は22日間勾留されたのち、起訴され、裁判が始まります。裁判ではNOONが風営法の規制の対象になるかどうか、つまり性風俗を乱す営業形態であったかどうか争われ、一審、二審で無罪、今回最高裁が検察側の上告を棄却したことでもでなく無罪が確定したということになります。

M：なぜNOONが摘発の対象になったのでしょうか？

金光：そこは警察もはっきり言わないんですね。背景としては、数年前から全国各地のクラブが風営法違反で摘発されるのが頻繁に起きていたんですが、警察のねらいはおそらく、「ダンスは性風俗を乱すものだから取り締まる」というところにはなくて、未成年者の飲酒や違法ドラッグ使用、けんか、騒音など、良俗を乱す行為が起きやすい場をコントロールしようということにあったのではないかと。そういった場をコントロールすることの意味はよく分かるんですけどね、私にも身に覚えがあるし……。

M：というところ？

金光：私はミナミから歩いて行けるくらいところで生まれ育って、中学の頃から同級生たちとよくミナミで遊びました。大人になってからも、「ど

こそこのクラブで仲間が喧嘩でやられてるらしい」という情報が入ると、ケータイもない時代に連絡とりあってそのクラブに駆けつけたり、場合によっては参加したり(笑)。でもクラブの経営者は風俗営業の届けを出していないので喧嘩がおきて警察を呼びにくい。そうなる之余計に喧嘩っ早い連中が集まる、っていう悪循環。

M：警察がクラブを「悪場所」みたいに見るのわからんではない、と。

金光：そうですね。地域の自治会が府警に陳情書を提出して取り締まりを促したこともあったと聞いています。でもここ20年でクラブを取り巻く状況はすっかり変わりました。音楽やダンスが好きだから、という理由で大卒の人たちが就職してくるようになりました。そんなことは昔は考えられなかった。クラブを取り巻く音楽文化が成熟したんだと私はとらえています。

M：風俗産業とみなされていたものが音楽文化の成熟とともにビジネスに変わっていった。そうした時代の流れを警察は読み切れなかったのかも。金光：そうかもしれません。そしてそういった成熟を反映して、たくさんさんのクラブ関係者、アート関係者、市民、弁護士さ

ん、学者さんたちが風営法改正の運動に参加しました。『Let's dance 署名推進委員会』が立ち上がり、16万人の署名を集めました。国会議員へのロビーイングにはダンス業界関係者と法律家参加し、超党派のダンス文化議連が立ち上がることで法改正につながったわけですね。

M：そうしたうねりのような一連の運動に参加した人たちにとって、金光さんの裁判はどういう意味を持っていたのでしょうか？

金光：私はお客さんにダンスをさせて捕まった。「踊れない国、日本を象徴する存在だったのかもしれない」。それから、裁判所がどのような判断を下すかは、運動に決定的な影響を与えたはずなんです。裁判所は「クラブでのダンスは、善良の風俗を乱す」という理由で規制されるべきダンスにはあたらない」という判断を下し、風営法の対象からダンスがはずされるべきという運動の主張を結果的に支持したわけですからね。

M：お話をうかがって思うのは、摘発されたことで大きなうねりの真ん中に放り込まれ、必死に頑張ってたどり着いた岸になんとかたどり着いた、という印象ですね。どうもありがとうございました。

✈ 海外男街通信

USA

世界各国の男街を紹介するこのコーナー。
今回はアメリカからきたサムくんにお国事情を教えてくださいました。



米国では最近まで同性婚を禁止する法律を持つ州がいくつか存在していたのだけれど、これらの州法は2015年の連邦裁判所の判断ですべて違憲となり、同性婚がすべての州で合法化された。これで米国にも同性婚定着かと思いきや、保守派の抵抗も侮りがたいようで、今年に入ってノースカロライナ州の州議会が「トランスジェンダーは戸籍上の(正確には出生証明書に書かれている)

性別に従ってトイレを使用しなければならない」とする法律を通過させた。なぜこのような法律ができたのかについて米国人留学生で政治学を専攻するサム・スピナーさんに語っていただきました。

ニュージャージー州出身のサム・スピナーと申します。父はウォール街で働くファイナンシャル・アドバイザーで、政治

に関する研究したい。さて、今回の「トイレ法」のような動きはミシシッピ州やアーカンソー州など他の州でも起きていて、そうした一連の法律を「反LGBT法」と呼ぶことにします。これらの地域の住民の多くは保守的な共和党支持者。伝統的なキリスト教的価値観を奉じる彼らは同性婚が定着しつつあることに強い危機感を抱いています。おまけにノースカロライナ州最大の都市シャーロットの市議会が最近になってLGBT差別禁止法を通過させるという事態となり、対抗措置として州議会の保守派議員が今回の反LGBT法成立のために動いたと考えられます。でも法律の内容は支離滅裂だし、実際に運用されるとパニックが起きる可能性もあります。男として社会生活を送っ



ているトランス男性が女性用トイレを利用しなければならぬとしたら……結局この法律はLGBT差別禁止法を通過させたシャーロット市議会へのリベンジでしかなく、連邦裁判所が違憲の判断を下すべきものだと思います。なぜトランスの人たちが標的になったのかというと、伝統的なキリスト教的価値観に従えば、社会の基盤は夫婦とその子供たちであり、トランスジェンダーの人々の存在はゲイやレズビアン以上にそうした家族観への脅威もしくは侵犯とみなされる傾向があります。1969年のストーンウォール事件以前、男装・女装すること自体が違法行為でしたし、トランスの人たちは厳しい偏見・差別にさらされてきました。1970年代以

文●Sum Spinner

まだ若い学生なのに、日米の国民性の違いを独自の視点で捉えているあたり、深いインテリジェンスを感じさせるサムさん。来年秋以降は腰をすえて日本のLGBTの研究に取り組みたいということで、またお会いできるのがとってもたのしみです。

〈LGBT差別禁止法〉vs.〈反LGBT法〉 ―ノースカロライナ州を舞台に繰り広げられる壮絶な闘い―

「文化庁メディア芸術祭」聞き覚えがないわという方もいらっしゃるかと思いますが。そもそも、仰々しい名前の付いているこの芸術祭は何かと言いますと、『アート、エンターテインメント、アニメーション、マンガの4部門において優れた作品を顕彰するとともに、受賞作品の鑑賞機会を提供するメ

なんと！
ゲイエロティックアートの巨匠として名高い田亀源五郎先生の作品「弟の夫」が第19回文化庁メディア芸術祭マンガ部門優秀賞を受賞しました！ いやー！本当に驚きましたし、感動しました。
「文化庁メディア芸術祭」聞き覚えがないわという方もいらっしゃるかと思いますが。そもそも、仰々しい名前の付いているこの芸術祭は何かと言いますと、『アート、エンターテインメント、アニメーション、マンガの4部門において優れた作品を顕彰するとともに、受賞作品の鑑賞機会を提供するメ

男色エンタメ紀行

受賞！田亀源五郎先生 ～同性婚が生み出す葛藤と心の交流を描く！～

※ <http://festival.j-mediaarts.jp/>より引用

田亀先生のゲイ雑誌での作品をご存じの方は私と同じように驚いたことでしょう。何せ田亀先生の作品はハードコアなゲイセックスを描く作品が多く、お堅い審査員(勝手なイメージです！)が評価するとは想像しにくかったからです。

しかし、そんな想定外が起きたのです。もちろん、受賞作品「弟の夫」がセックス描写を控えているという点はあるでしょう。本作はゲイの双子の弟を亡くした主人公とその娘(小学生)のもとに、弟の結婚相手のカナダ人がやってきて、交流を深めるうちに主人公が自身の中にあった偏見に気付いていくというもの。

日常の中の小さな気づきをリアルに描いていく作品であり、レイプなどの非日常を通して生まれる愛憎を描いた他の田亀作品とは一線を画しています。その点がお堅い審査員(勝手なイメージです！)に受け入れられやすいというはあるかと思えます。

しかし、「ゲイエロティックアートの巨匠」という作者の二つ名に対して偏見なく、作品を作品として評価した、という

文●Tonakai 白髪丸太

(Tonakai) distaサイト内でコラムを書いたりしています。本や漫画が好きですが白髪の丸太さんとは違って売っていく派です(笑)。twitterはこちら→@NeroKei

(白髪の丸太)かつて漫画で破産しかけた経験のある白髪の丸太。最近では、Tonakaiさんから漫画を譲ってもらったりしていて本棚がパンパンです。

ことが素晴らしいと思うのです！そして、評価されたのは、実は作品だけではありません。審査員の松田洋子氏は次のように贈賞理由を語っています。『(前略)マイノリティが全員同じ考えを持つというわけでもないし、どこまでどのように描くか、内と外両方のバランス感覚が要求される。面倒だけれど、あの一本一本おろそかにせず丁寧に描かれる体毛の職人技を見れば作者の誠実さと根気と我慢強さは疑いようがない。そしていつか小学校の教室の後ろの学級文庫に本作が置かれ、主人公の娘・夏菜のような子どもたちが読んで人の恋路を邪魔しない大人に成長するのを期待している。』

追っかけエィズ + 番外編
HIV陽性者と震災
いつ見舞われるかわからない自然災害。今年も熊本で大きな地震が起き、道路が寸断され一部集落が孤立化したり、豪雨で土砂崩れや土石流が発生し、一瞬にして非日常な状況に陥った場合、はたしてどこまでいつも通りの自分の生活の流れが保てるのでしょうか？いくら同じ地区に住むご近所さんとはいえ避難所生活はやはりストレスフル。5年前の東日本大震災、大きな津波が自宅や車はもちろん、毎日飲んでいる薬まで流されてしまい、困難な状況に陥ったHIV陽性者の方たちも多いと聞きました。

今回はまさにあの震災、あの津波を目の当たりにしたコミュニティセンターZELの太田さんに、HIV陽性者と震災、そして備えについて伺いました。

では、服薬の際に他人の目を気にしなければいけない状況にあることも明らかにしました。(※抗HIVの中には、食事を取ってから飲む必要がある薬があります。この薬は、胃から分泌される消化酵素の働きで薬の吸収が促進される仕組みになっているため、食事を取らずに服薬した場合、薬の成分が十分量吸収されず、薬を飲み忘れたのと同じことになってしまします。)

患者さん自身ができる備え「お薬手帳」

これらのアンケート結果を受けて、今後、医療者側ができることとして「余裕を持った薬の処方」「やむを得ない場合の服薬の中断方法を含んだ服薬支援」などが提案されました。また、患者さんができることとして「食料・飲料水の備え」「数日分の薬を日頃から持ち歩くこと」「お薬手帳の準備」などが提案されました。アンケート結果では、約半数が「お薬手帳」を持っていることもわかりました。災害時には、いつも通院している病院に行けないことや手元に薬がないことも考えられます。もしもの時に備えて、自分が飲んでる薬を医師・薬剤師に伝えられるようお薬手帳やそれに代わるものを準備しておくことをお勧めします。

コミュニティセンターZELでは、東日本大震災の翌年に、シンポジウム「東日本大震災とHIV陽性者」を開催しました。その折に浮かび上がった服薬の問題についてレポートします。

震災下での服薬の難しさ

そもそも抗HIV薬は、毎日決められた時間に服薬しないと、ウイルスが薬に対する耐性を持つてしまい、薬が効かなくなってしまう可能性があります。仙台医療センター外来を訪れた患者さんたちを対象に実施したアンケートの結果、震災時に「薬がなくて服薬できなかった」「薬はあるが服薬できなかった」「時間通りに服薬できなかった」など、抗HIV薬を正しく服薬できなかった患者さんが4分の1いたことが明らかになりました。

薬はあるが服薬できなかった理由は、「食事がなかった」「生活のリズムが変わった」「なんとなく飲む気にならなかった」「他人の目が気になった」など。時間通りに服薬できなかった理由では、「食事がなかった」「飲料水がなかった」「他人の目が気になった」などの回答が寄せられました。避難生活により、食事や飲料水が自由に手に入らず、薬が飲めなかったり、時間通りに服薬できなかったりしたという方がいたようです。避難生活の中

降レズビアンやゲイの解放が大幅に進みますが、トランスジェンダーの人々の場合ようやく最近になって元アスリートでテレビパーソナリティーのケイトリン・ジェンナーや女優のラバーン・コックスがメディアに進出してきました。こうした動きに対抗して保守派のリベンジもまた激しくなっているのかもしれない。彼らの主張は宗教感情に根差しているがゆえに、容易に変わることがありません。反LGBT法を通じての保守派のリベンジはしばらく続くような気がしますし、LGBT差別禁止法の意味もここにあると思います。

僕はこの点に米国の文化と日本の文化の大きな違いを感じています。米国ではセクシュアリティはアイデンティティの一部となりますが、日本では必ずしもそうではない。日本の人は他者の現実をありのまま受け入れる傾向がありますが、米国人は他者が自分の思うように行動することを望むところがあります。だからこそ政治参加も活発になるわけですが……。